

## シンポジウム「2024年選挙とジョコウィ政権の10年」

2024年選挙はプラボウォの勝利をもたらした。ジョコウィ時代の10年は、今回の選挙にどのような影響を及ぼしたのか。プラボウォ政権の展望を考える上でも、2024年選挙の性格を理解することが重要である。本シンポジウムでは、4つの視点から選挙分析を提示する。

司会 本名純（立命館大学）

### S1 東方孝之（アジア経済研究所）

#### 「2024年大統領・議会選挙結果からみた投票行動の特徴」

要旨：本報告では、まず、総選挙委員会（KPU）が公開している県市別の投票結果をもとに、2024年の大統領選挙結果と議会選挙結果を概観する。次に、前回までの県市別投票結果との対比から、2024年の投票行動の特徴を確認する。前回の2019年の選挙では、大統領選挙での支持の分極化と議会選挙での政党支持の固定化傾向がみられた。こうした過去の選挙結果との比較を通じて2024年の選挙での投票行動の特徴を探り、その暫定的な分析結果を紹介する。

### S2 岡本正明・久納源太（京都大学）

#### 「TikTokによる政治のエンタメ化？」

要旨：TikTokが新たな政治ツールとして台頭する中で、TikTokが政治をエンタメ化してきているという話がある。本当にそうなのだろうか？この点について、2024年大統領選挙における政治的TikTokのコンテンツから分析する。

### S3 茅根由佳（筑波大）

#### 「2024年大統領選挙におけるナフダトゥル・ウラマーの政治」

要旨：2024年の大統領選挙では、国内最大のイスラーム組織ナフダトゥル・ウラマー（NU）がジョコ・ウィドド大統領にとっての「忠実なパートナー」となり、大統領の後援を受けたプラボウォーギブラン陣営に対する組織票の実質的な支持を固めた。本報告では、この選挙におけるNU指導部の戦略と帰結について論じたい。

### S4 森下明子（同志社大学）

#### 「スナヤンの580人：2024年総選挙で選ばれたインドネシア国会議員の特徴」

要旨：報告者は1999年の総選挙以来、総選挙が実施されるたびに国会議員のプロフィールに関するデータベースを作成・更新してきた。現時点で延べ3000人以上の国会議員データがある（なお複数回当選している議員も多いため、実際のデータ数は過去25年の国会議員総数よりも少ない）。

本報告では、このデータベースを用いて、2024年総選挙で選ばれた国会議員580名の社会・政治的特徴を明らかにし、さらに過去25年の国会議員の特徴と比較する。現在の国会議員には、これまでの国会議員と比べて、どのような変化や連続性が見られるのか。国会議員の特徴を通して、現在のインドネシア政治についてどのようなことが見えてくるのか。報告では特に国会議員の家族的背景と職歴に注目する。

討論者 増原綾子（亜細亜大学）、水野祐地（アジア経済研究所）